

ワークショップ1

**賑岡地区社協  
ボランティア人材発掘大作戦！**

グループ9

発表者 長田 泰史  
(所属：大月市社会福祉協議会)  
アドバイザー 小野 敏明

作業1 「賑岡地区が抱える地域課題を確認する」

分類項目	地域課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らし（日中独居も含む）が多い。</li> <li>・地域文化を軸とした組織の連携</li> <li>・少子高齢化に伴い、近所付き合い、支え合いが薄れている</li> <li>・現在の取り組みでは、民生委員の負担が極めて大きい</li> <li>・趣味などが多様化した事で、生活スタイルが変化したことと、東京都内への通勤圏となっていて、多くの若い方が、東京都内へ通勤している事などから、地域での組織が崩壊して来ている（熱心に取り組んでいる消防団も若手の人材不足）</li> </ul>
<p>取り上げる地域課題</p>	<p>都内へ通勤している住民が多く、3.11の災害時において、その方たちが帰宅困難となったため、日中に高齢者が地域に取り残され、安否確認が困難となったと考えられた。</p>

## 作業2 「賑岡地区が抱える地域課題の解決を考える」

項 目	内 容	留 意 点
地区の状況	<p>(着目点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬場における降雪時、民生委員が自主的に除雪作業を行った（ご近所同士で支え合うことができないか？）</li> <li>・子供が少ないが、少年野球が活発</li> <li>・デイサービスが民間の1施設のみ（緊急時避難できる施設として考えた）</li> <li>・地域の運動会を行っている</li> <li>・高齢化は進行しているが、9割は元気な高齢者</li> </ul> <p>※キーワードは、元気な高齢者、少子化</p>	
地域課題を解決するために想定される活動（実践仮説）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然などの大月のブランド（文化）作り</li> <li>・遊休農地を利用する（生涯現役）</li> <li>・男性ボランティアを育成する（講座等開催）</li> <li>・消防団（OBの協力消防団員）による夜警（見回り、見守り）</li> <li>・高齢者自身の避難チーム結成（高齢者自身の自助活動）</li> </ul>	
活用する地区の社会資源	<p>(着目点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お祭り、どんど焼き、道祖神など、古くからある文化の作り直し。</li> <li>・地域の運動会（異世代間交流のきっかけ）</li> <li>・地域の団体</li> <li>・民宿</li> <li>・公民館</li> </ul>	
目 標	<p>当面の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民生員の負担軽減のために、各種団体との連携を強化する</li> <li>・各分野ごとの専門的なボランティアの養成（特に男性←男性は技術を持っている方が多い）</li> </ul> <p>将来の 展開目標</p> <p>～そうは言っても少子化対策として…～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・月こん</li> <li>・ファーストスプーン（甲州市）</li> </ul>	

作業 2 - 2

項 目	内 容	関係専門職	留 意 点
予測される 担い手	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生など子供</li> <li>・地区社協</li> <li>・育成会、消防団など</li> <li>・元気な高齢者</li> </ul>		
担い手への 問題共有の 方法・担い 手どうしの 関係形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティノコミュニケーション (飲み会)</li> <li>・井戸端会議 (組ごと)</li> <li>・市社協のバックアップ</li> </ul>		
各担い手の 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体と民生委員との協働</li> <li>・小中学生と元気な高齢者とで、絵手紙な どを持って友愛訪問を行う</li> <li>・全住民での座談会 (小地域ごと)</li> </ul>		
課題解決活 動づくりの 手順 (計 画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防団を中心として、各種団体と協働で 災害時のためのマニュアル作り</li> <li>・各種団体と話し合いながら、高齢者によ る避難チームの結成</li> <li>※あんしんカードと見守りマップの作成 を軸として</li> </ul>		